

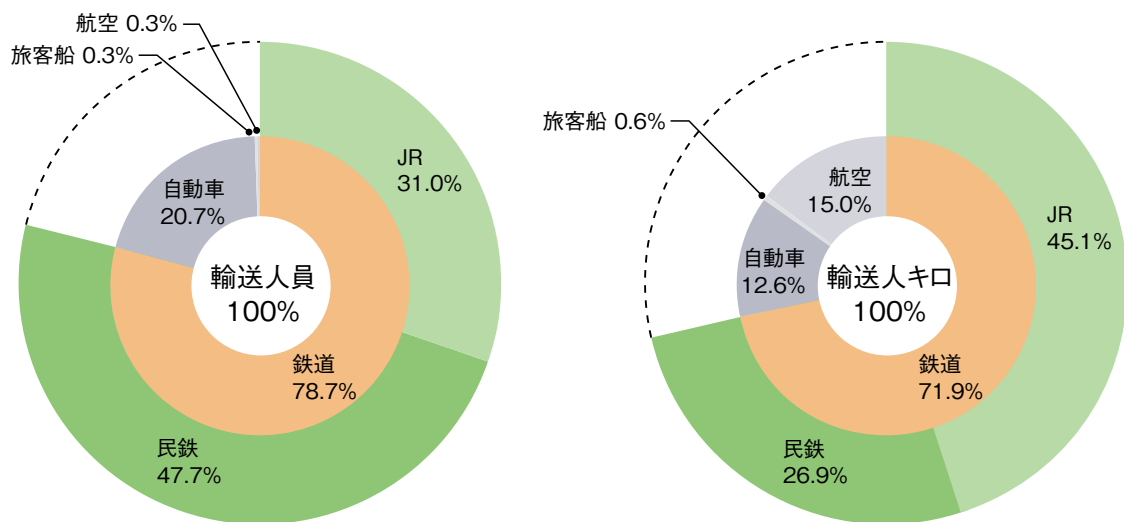
[2] 交通機関として民鉄が担う役割

公共交通手段のなかで民鉄の分担率は47.7%

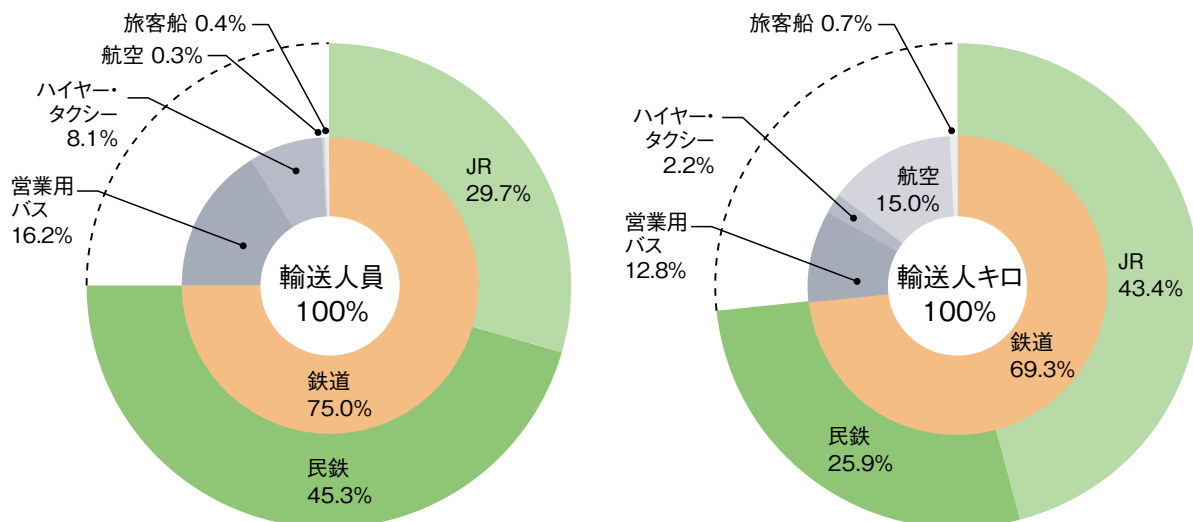
2014年度 国内旅客輸送の民鉄の輸送分担率は輸送人員ベースで47.7%、輸送人キロベースで26.9%、JRと合わせた鉄道の分担率は約7割を占めています。

環境保護やエネルギー効率などの面から公共交通機関の利用促進が求められているなか、民鉄が旅客輸送の重責を担っていることが読み取れます。

旅客の公共輸送機関別分担率(2014年度)



旅客の公共輸送機関別分担率(2003年度)



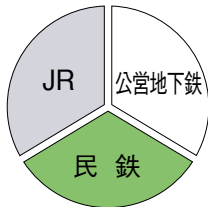
資料:国土交通省「数字でみる鉄道2016」
 ” 「数字でみる鉄道2005」

三大都市圏の大手民鉄の1日の輸送人員は2,794万人

東京・名古屋・大阪を中心とする三大都市圏の鉄軌道の年間輸送人員は約202億2,323万人(1日平均約5,540万人)で、そのうち民鉄の占める割合は、首都交通圏で53.8%、中京交通圏で40.8%、京阪神交通圏で46.0%となっており、大都市圏の基幹的な交通機関として、大きな役割を担っています。

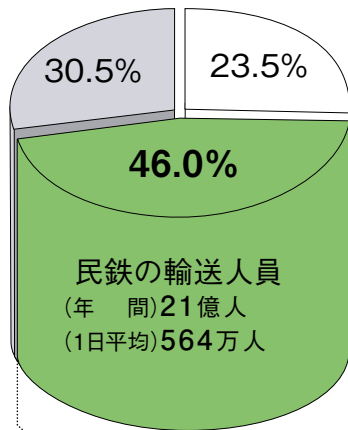
三大都市交通圏の交通機関別鉄軌道輸送人員の割合(2012年度)

■凡例



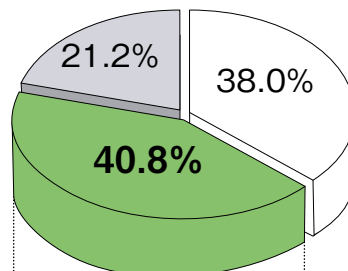
京阪神交通圏の輸送人員

(年間)45億人
(1日平均)1,228万人



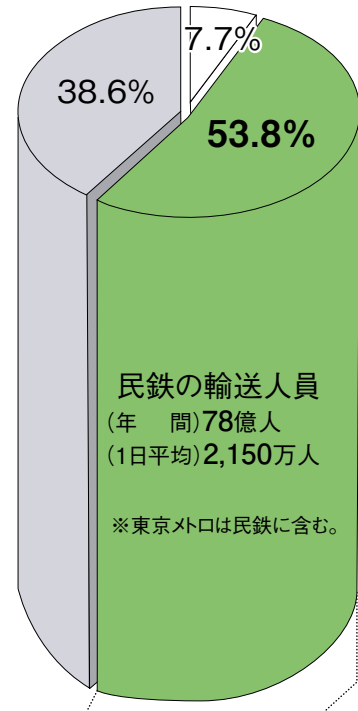
中京交通圏の輸送人員

(年間)11億人
(1日平均)312万人

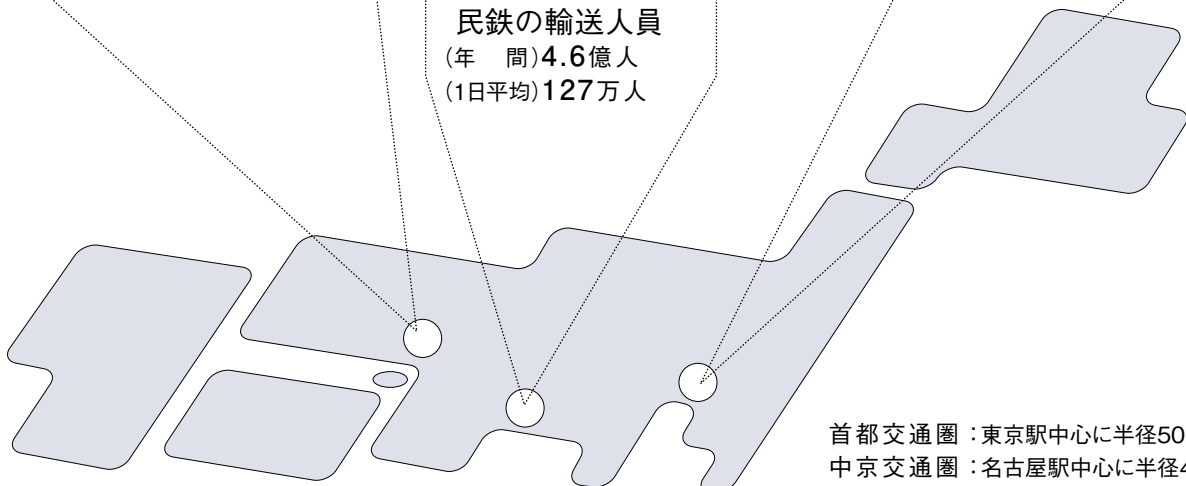


首都交通圏の輸送人員

(年間)146億人
(1日平均)4,000万人



※東京メトロは民鉄に含む。



首都交通圏：東京駅中心に半径50km
中京交通圏：名古屋駅中心に半径40km
京阪神交通圏：大阪駅中心に半径50km
但し、特に交通不便な地域及びその大半が圏外にある行政区域は除外

資料:国土交通省「平成24年度 鉄道統計年報」
「平成26年版 都市交通年報」

(注)円グラフの割合は年間の人員による。
四捨五入のため、合計は必ずしも100%にならない。